

モザンビーク

Republic of Mozambique

	2016年	2017年	2018年
①人口：2,869万人（2018年）			
②面積：79万9,380万km ²			
③1人当たりGDP：476米ドル （2018年）			
④実質GDP成長率（%）	3.8	3.7	3.4
⑤消費者物価上昇率（%）	23.7	5.7	3.5
⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支（100万米ドル）	△1,405	△498	△973
⑧経常収支（100万米ドル）	△3,846	△2,586	△4,348
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	2,022	3,179	3,078
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	16,264	17,077	18,771
⑪為替レート（1米ドルにつき、 メティカル、期中平均）	63.06	63.58	60.33

〔注〕⑥は12月値、⑦は国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④：モザンビーク統計庁、③⑨⑩IMF、⑤⑦⑧⑩：モザンビーク中央銀行

■非開示債務問題の解決へ一定の前進

2018年の実質GDP成長率は3.4%で、前年の3.7%を下回った。需要項目別では、国内総固定資本形成が12.4%増、財貨・サービスの輸出が36.5%増と高い伸びを示したが、政府最終消費支出が5.7%減と前年の3.2%増から大幅に低下した。財貨・サービスの輸入も43.7%増と膨らみ、全体の成長率を押し下げた。GDP成長率は2015年まで7%前後の伸びを記録していたが、2016年の非開示債務問題発覚を受け、それ以降は3%台で推移している。IMFによる支援プログラムや主要ドナーからの援助停止に加え、緊縮財政の実施は経済成長の阻害要因となっている。

一方、2018年に入ってから、債権者との再編協議や責任追及が進められるなど、非開示債務問題の解決に向けて一定の進展がみられる。IMFは、問題の発覚以来凍結している一般財政支援の再開に向けた政府との協議を開始する意向を示した。また、政府は今後25年間で、開発中の天然ガス田から950億ドルに上る収入があると予測しており、投資促進や雇用創出と相まった経済効果を見込んでいる。

2019年の経済見通しについては、3月と4月の2度にわたって発生した大型サイクロンの影響が懸念される。特

表1 モザンビークの需要項目別実質GDP成長率

	（単位：%）		
	2016年	2017年	2018年
実質GDP成長率	3.8	3.7	3.4
民間最終消費支出	6.8	0.6	3.7
政府最終消費支出	20.2	3.2	△5.7
国内総固定資本形成	△9.4	△5.8	12.4
財貨・サービスの輸出	△6.1	3.9	36.5
財貨・サービスの輸入	8.0	△12.9	43.7

〔出所〕モザンビーク統計庁

に第2の都市ベイラの被害は甚大で、周辺諸国のジンバブエ、マラウイ、ザンビアの貿易拠点となっているベイラ港の損害や、地域一帯の80万ヘクタールの農地が洪水被害を受けた。政府は復興費用を総額15億ドルと見込んでいる。復興事業への予算配分と被災地域への特別減税による税収減は、2019年10月に大統領・議員選挙を控える中、政府の予算計画にとって大きな痛手となる。サイクロン被害の影響を考慮し、政府は2019年の実質GDP成長率予測は当初の3.8%から2.8%に下方修正した。IMFも当初の予測を下方修正し、1.8%とした。

■最大輸出品目の石炭が洪水で低調な伸び

2018年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比10.0%増の51億9,600万ドル、輸入は18.1%増の61億6,900万だった。貿易収支は9億7,300万ドルの赤字となり、前年の4億9,800万ドルから赤字幅が拡大した。

輸出を品目別にみると、最大品目の石炭（構成比33.1%）が前年比2.3%増、次ぐアルミニウム製品（26.8%）が22.4%増だった。上位2品目の順位は前年と変わらず、構成比の合計は全体の約6割に上った。ブラジル資源大手ヴァーレと三井物産が開発を進めるモアティゼ炭鉱での2018年の石炭生産量は前年比3割増を見込んでいたが、洪水被害などの影響で当初の生産計画を下回った。一方、アルミニウム製品は主に三菱商事が出資するモザールで製錬されているが、好調な市況を受け輸出が増加した。国別では、首位のインド（構成比27.6%）は11.5%減少した。一方、2位オランダ（21.2%）は2.3倍の伸びを記録した。インドは金額ベースで約8割を石炭が占め、オランダは約5割をアルミニウム製品が占めた。

輸入を品目別にみると、最大品目の一般機械（構成比17.0%）が前年比36.6%増と大きく伸びた。石炭や天然ガ

表2 モザンビークの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)				
	2017年 金額	2018年			2017年 金額	2018年			
		金額	構成比	伸び率		金額	構成比	伸び率	
石炭	1,680	1,719	33.1	2.3	一般機械	768	1,049	17.0	36.6
アルミニウム製品	1,138	1,392	26.8	22.4	燃料 (原油等)	747	933	15.1	24.9
電力	361	386	7.4	6.9	アルミニウム原料	450	575	9.3	27.7
天然ガス	360	312	6.0	△13.1	建設資材 (セメント除く)	383	395	6.4	3.2
重砂	210	262	5.0	24.8	自動車	187	350	5.7	86.9
貴石・貴金属 (ルビー、サファイア等)	97	128	2.5	32.4	医薬品	227	217	3.5	△4.4
合計 (その他含む)	4,725	5,196	100.0	10.0	コメ	171	206	3.3	20.9
					小麦	120	169	2.7	40.1
					電力	245	164	2.7	△32.8
					合計 (その他含む)	5,223	6,169	100.0	18.1

[注] 2017年の輸出入統計は品目別のみ改定値が公表されており、表3の国別 (改訂前) とは異なる。

[出所] モザンビーク中央銀行

表3 モザンビークの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)				
	2017年 金額	2018年			2017年 金額	2018年			
		金額	構成比	伸び率		金額	構成比	伸び率	
インド	1,622	1,436	27.6	△11.5	南アフリカ共和国	1,498	1,611	26.1	7.6
オランダ	472	1,103	21.2	133.4	中国	449	727	11.8	62.0
南アフリカ共和国	884	896	17.2	1.4	アラブ首長国連邦	483	472	7.6	△2.3
中国	253	302	5.8	19.5	オランダ	446	471	7.6	5.5
香港	86	124	2.4	45.1	インド	410	446	7.2	8.7
シンガポール	137	116	2.2	△15.4	シンガポール	91	257	4.2	183.0
ポーランド	31	101	2.0	222.6	ポルトガル	220	209	3.4	△4.9
米国	53	99	1.9	85.9	米国	102	198	3.2	95.1
合計 (その他含む)	4,719	5,196	100.0	10.1	合計 (その他含む)	5,183	6,169	100.0	19.0

[注] 2017年の輸出入統計は品目別 (表2) のみ改定値が公表されており、国別 (改訂前) とは異なる。

[出所] モザンビーク中央銀行

スの開発の進展に伴い、建設・鉱業機械の輸入が拡大したのが要因だ。原油などの燃料 (15.1%) も原油価格の上昇により24.9%増だった。電力 (2.7%) は32.8%減と大幅に減少したが、これは日本のODA事業として2018年8月に稼働開始したマプト火力発電所 (発電容量110メガワット) の開設を受け国内向け供給が増加したため。

国別では首位の南ア (構成比26.1%) が前年比7.6%増、2位の中国 (11.8%) が62.0%増となった。両国からは燃料、食料品、自動車関連品目など広範な品目を輸入しており、この2カ国で輸入全体の約4割を占めた。

■天然ガスを中心に鉱業分野への投資が好調

2018年の対内直接投資 (国際収支ベース、ネット、フロー) は、前年比17.4%増の26億9,200万ドルとなった。産業別では、天然ガス開発を中心とする鉱業への投資が全体の約8割を占め、57.3%増の20億8,000万ドルと好調だった。イタリア炭化水素公社 (ENI)、エクソン・モービルが25%ずつ権益を持つ北部カーボ・デルガド州沖合の天然ガス田 (エリア4コーラル・サウス鉱区) の最終投資決定は2017年6月に発表され開発が本格化している。

同エリア4マンバ鉱区も2019年末までに最終投資決定が発表される予定だ。米アナダルコを筆頭に三井物産も参画するエリア1の最終投資決定は2019年6月に発表された。今後も天然ガス開発関連の投資が増加すると見込まれる。

国別では、オランダが最大 (12億1,500万ドル) で、これに日本 (9億9,400万ドル)、イタリア (7億1,300万ドル) が続いた。米エクソン・モービルや中国国営石油開発会社 (CNODC) をはじめ、天然ガス開発に投資する資源会社の中には、オランダにおける税制面での優遇措置や同国とモザンビークの間で投資協定が締結されていることから、オランダの子会社を経由して投資するケースが多い。

■日本の輸出は自動車を中心に好調

2018年の日本のモザンビークへの輸出 (通関ベース) は前年比22.2%増の1億2,300万ドルで、輸入は0.5%減の1億7,600万ドルとなった。

輸出は、自動車を含む輸送用機器 (構成比38.0%) が前年比55.2%増で最大となった。また、前年は輸出実績

表4 モザンビークの業種別対内直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位：100万ドル、%)

	2017年	2018年		
	金額	金額	構成比	伸び率
鉱業	1,322	2,080	77.3	57.3
製造・加工業	83	195	7.2	134.3
不動産・レンタル業	148	97	3.6	△34.5
建設	105	92	3.4	△12.5
運輸・情報通信	205	75	2.8	△63.5
農業	82	69	2.6	△15.5
金融・保険	37	62	2.3	65.6
観光業	48	29	1.1	△39.7
合計（その他含む）	2,293	2,692	100.0	17.4

〔出所〕モザンビーク中央銀行

のなかった軽油（19.2%）が2,400万ドルとなり、全体2位になった。輸入は、全体の7割以上を占め最大の品目である石炭（製鉄用の原料炭）が13.4%減と低調だった。2位のゴマ（7.0%）は42.5%の大幅増となった。

2018年から2019年にかけて、東北電力、東京ガス、JERAがモザンビークからの液化天然ガス（LNG）購入に関して、米アナダルコや三井物産が出資するLNG販売

表5 モザンビークの国・地域別対内直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位：100万ドル、%)

	対内直接投資			
	2017年	2018年		
	金額	金額	構成比	伸び率
オランダ	12	1,215	45.1	9,888.7
日本	4	994	36.9	23,090.3
イタリア	205	713	26.5	248.6
南アフリカ共和国	125	372	13.8	197.9
モーリシャス	249	163	6.1	△34.5
チュニジア	0	93	3.4	全増
ポルトガル	106	68	2.5	△35.2
スイス	16	30	1.1	88.0
マーシャル諸島	0	29	1.1	全増
中国	222	26	1.0	△88.2
合計（その他含む）	2,293	2,692	100	17.4

〔出所〕モザンビーク中央銀行

会社モザンビークLNG1との売買基本契約を発表した。モザンビークLNG1が権益を持つエリア1ガス田からの天然ガスの生産についても、2024年内の開始が予定されている。こうした中、日系企業によるLNG購入やさらなる進出が期待される。

表6 日本の対モザンビーク主要品目別輸出入＜通関ベース＞

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2017年	2018年				2017年	2018年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器（自動車）	30	47	38.0	55.2	石炭	147	127	72.3	△13.4
軽油	0	24	19.2	全増	ゴマ	9	12	7.0	42.5
鉄鋼	9	12	10.0	37.7	非鉄金属鉱物	11	12	6.8	10.8
一般機械	28	11	8.9	△61.4	原油および粗油	0	8	4.7	全増
電気機器	6	9	7.1	49.0	貴石および半貴石	1	7	3.9	355.8
合計（その他含む）	101	123	100	22.2	合計（その他含む）	177	176	100	△0.5

〔出所〕日本財務省